

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集: FXニュースレター

執筆担当: 斎藤登美夫



◆◆◆ No.0087 ◆◆◆

10/09/01

## 【 年間変動率で年内 80 円割れの可能性否定出来ず 】

当レターでもレポートした(No.0082)ように、経験則の観点から「圧倒的な円高有利」と言われた 8 月相場が昨日終了した。そして過去の経験則通りに円高傾向で終わったわけだが、足もとの円高がさらに続くとすれば下値メドは一体どの程度なのか。過去にも何度か報じていることだが、ここで改めて考えてみたい。ドル/円の 80 円割れについての見通しもジワリと強まりつつあるものの、年間変動率の観点からもしかにその可能性は否定出来ないようだ。最終的な下値メドは 78.80 円レベルとなる。

### ◎足もとの 9 月相場は荒れ易く要注意

のっけから余談めいた話で恐縮だが、前述した No.0082 のレポートで 8 月相場について筆者は、「圧倒的な円高有利」のほか「値幅的には 1 年を通して小変動に留まる」と「月初 or 月末のいずれかに月間のドル高値かドル安値を記録する」という 2 つの特徴を指摘した。実際に今年の 8 月相場を振り返ってみると、ドル/円は月間を通して 3.30 円ほどの変動で、これは 7 月(3.17 円)に次ぐ今年 2 番目の小変動だった。また、月間のドル高値 86.87 円を 8 月 1 日に付けており、後者の「月初 or 月末のいずれかに月間のドル高値かドル安値を記録する」についても見事に達成していた。つまり、今年の 8 月は円高に振れたことと言え、パターン通りの展開だったと言えそうだ。

そんな実績に踏まえ、調子に乗って本題に入る前に過去の 9 月相場についての特徴を簡単に指摘しておく。7 月や 8 月のように円安、円高のどちらが有利という傾向は見られない。しかし、ほかの月に比べて 9 月は圧倒的な値幅を誇る。古参ディーラーの間では「ハリケーンシーズンの相場は荒れ易い」と言われているが、まさに 9 月は地で行く傾向がうかがえる。

さらに、為替の大相場と関係があるのか、過去の 9 月は何か大事件が起こりやすい。幾つか例を挙げると、1985 年の「プラザ合意(22 日)」を筆頭に 1980 年にはイラン・イラク戦争始まる(22 日)、1992 年には英ポンドと伊リラが ERM と呼ばれた欧州通貨のバンド制から離脱(16 日)、1998 年には大手ヘッジファンドである LTCM の巨額損失発覚(24 日)、2001 年の米国同時多発テロ(11 日)、2008 年のリーマンブラザーズ破たん(14 日)など。とくに中旬以降に要注意か。今年の 9 月も思わぬビッグニュースが飛び出すリスクなども考慮しておいた方が良いでしょう。

さて、そうした 9 月相場を含め、取り敢えず年内限定でドル/円の下値メドを考えると、年間変動率の観点ではドルの下値余地は依然大きく、年内 80 円割れの可能性は非常に高いと言わざるを得ない。詳細はバックナンバーを参考にして欲しいが、今年の年初 6 日の原稿(No.0053)で筆者は相場を「ドル最強」から「ドル最弱」まで全部で 5 段階にわけ、個人的には「中立」か「弱気」の見通しを指摘した。しかし、年初来ここまでの実勢相場を検証すると、ドル/円相場は年初のオープンが 92.75 円で高値が 94.99 円、安値 83.58 円となっている。これを計算するとドルは 2%の上昇に対して下落は 10%となっており、これは前述したパターン的には「ドル最弱相場」にほぼ合致する。もちろんまだ断定は出来ないが、「最弱」傾向が年末に向けても続くとすれば、ドルの下値メドは 78.80 円レベルとなる。飽くまでも過去の経験則を参考にした年間変動率による分析だが、ドルの下値余地は年内に限ってもまだまだ大きいものがあるのかも知れない。是非とも注意をして欲しい。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

